

現状・課題

- 現状【H28】
- ①入院時情報提供率（ケアマネ→病院）：90%以上との回答が約3割
 - ②病院が他機関との連携のしづらさを感じている割合：86%

病院

- ◆退院支援に関わるのは、退院支援担当部署だけではない
- ◆ケアマネジャーに病院の役割・機能を理解してほしい
- ◆患者や家族が在宅医療を選択肢の一つにできるよう、普及啓発が必要

※平成28年度「在宅医療・介護に関する実態調査」より

市民

- ◆在宅医療について患者や家族の理解が進んでいない
- ◆在宅医療の受け皿や社会資源が地域にどれだけあるか分からない

※平成28年度「在宅医療市民公開講座アンケート」より

ケアマネジャー

- ◆入院時の情報提供が役立っているのか疑問
- ◆病院と連携するには病院の機能や役割を理解する必要がある
- ◆病院のMSW以外のスタッフにも在宅医療や介護を理解してほしい

※平成28年度「在宅医療・介護に関する実態調査」より

「新潟市医療と介護の連携ハンドブック（仮称）」

- 1 医療介護関係者への調査をもとに、医療と介護の連携の現状から、解決すべき課題点について整理
- 2 入院から退院時までの医療介護関係者の連携の流れと、在宅復帰した後の連携の流れを見える化
- 3 医療介護関係者が円滑に連携するためのポイントをまとめた「ハンドブック（仮称）」を作成
- 4 市民へ在宅医療の普及啓発を促すためのツールとしてハンドブックの活用方法を検討

期待する成果

- 目標【H32】
- ①入院時情報提供率（ケアマネ→病院）：90%以上との回答が**6割**
 - ②病院が他機関との連携のしづらさを感じている割合：**40%**

病院

- ◆入院前の在宅での状況が把握でき、入院中の患者の状況に応じた対応ができる
- ◆在宅医療・ケアについて理解を深め、在宅医療を見据えた支援を実施できる

市民

◆病院から在宅医療へ安心して移行できる

ケアマネジャー

- ◆医療機関と円滑な連携を図ることで、患者の状態変化に応じた在宅サービスの利用を支援する
- ◆医療機関の役割を理解し、受診・入院・退院支援を適切に実施できる